



8月講座

授業力向上

PICK
UP

申込
期間

小・中・義務教育学校
6/19(月)～6/28(水)
府立学校
6/19(月)～7/3(月)

601 地域教材を活かした授業づくり講座Ⅰ ～山城郷土資料館で学ぶ～



8月3日(木) 京都府立山城郷土資料館
講師: 京都府立山城郷土資料館 資料課長 福島 孝行

山城郷土資料館の常設展及び特別展の見学やワークショップを通して、山城地域の歴史や文化への認識を深めます。また、授業での地域教材の活用について考えます。

422 中高外国語科教育講座Ⅰ ～授業のできる即興型英語とディベート～



8月8日(火) 京都府総合教育センター
講師: 大阪公立大学 准教授 中川 智皓

即興型の英語ディベートを通して、実際のコミュニケーションにおいて、発信できる力を育むための実践的な指導方法について学びます。

352 人権教育講座Ⅰ ～同和問題を考える～



8月9日(水) 京都府総合教育センター
講師: 大阪多様性教育ネットワーク 共同代表 土田 光子

実践発表では、人権教育の具体について学び、演習では、人権学習、集団の中での人間関係づくりを知り、共生社会を創造していく人権学習の方策について学びます。

408 小学校実技どんとこい! 理科&家庭科講座



8月9日(水) 京都府総合教育センター北部研修所
講師: 京都府総合教育センター 所員

理科では、顕微鏡などの観察用具、薬品やガラス器具の安全な扱い方を学びます。また、家庭科では、ミシンの取扱いや製作についての指導方法を考えます。

413 幼小特支「図画工作科の授業づくり」講座 ～造形遊びの指導とICT活用～



8月23日(水) 京都府総合教育センター北部研修所
講師: 鳴門教育大学 教授 山田 芳明

講義・演習を通して、造形遊びの指導と評価について学ぶとともに、造形遊びにおけるICTの効果的な活用について理解を深めます。

466 「今を生きる子どものこころ」講座 ～今、あらためて不登校を考える～



8月4日(金) 各所属校(園)
講師: 奈良女子大学 教授 伊藤 美奈子

本講座は、今を生きる子どものこころに焦点を当てた内容を取り上げます。今回は、不登校に至る背景や心情など、不登校をめぐる子どものこころを理解し、寄り添う関わりを学びます。

402 小・中・高国語科の授業におけるICT活用講座



8月8日(火) 各所属校(園)
講師: 都留文科大学 教授 野中 潤

全国のさまざまな校種の実践例から、国語科の効果的なICTの活用について理解を深め、演習を通してICTの活用を効果的に位置付けた具体的な授業場面や単元について考えます。

419 小学校家庭科講座 ～深める授業づくりのためのICT活用～



8月8日(火) 京都府総合教育センター北部研修所
講師: 兵庫教育大学 教授 永田 智子

NHK高校講座「家庭総合」の監修・出演をされている永田先生が講師です。学習場面に応じたICT活用と授業に生かす方法を体験的に学び、これからの授業づくりについて考えます。

418 中学校技術基礎講座 ～授業づくりの基礎と基本～



8月9日(水) 京都府総合教育センター北部研修所
講師: 京都教育大学 教授 原田 信一

学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについて考え、木工やハンダ付けなどの危険を伴う実習の指導方法や安全管理について実技を通して学びます。

416 中高音楽「能の節を謡ってみよう&タブレットでお囃子を創ろう」講座



8月17日(木) 京都府総合教育センター北部研修所
講師: 東京藝術大学 准教授 水上 優

能「敦盛」と「羽衣」の謡の実技とタブレット端末での囃子創作を通して、能楽への理解を深め、伝統音楽の学習を通して育む資質・能力について考えます。

431 図書館教育講座 ～調べ学習を支援する学習・情報センターとしての在り方～



8月25日(金) 京都府立図書館
講師: 京都女子大学図書館司書課程 講師 桂 まに子

図書館の「学習・情報センター」としての機能を活用した、児童生徒が主体的に学ぶ「探究的な学習」について、授業構想力の向上を図ります。

441 病弱児童生徒へのオンライン授業を含めた指導・支援講座



8月18日(金) 各所属校(園)
講師: 京都女子大学 教授 滝川 国芳

病弱教育の定義や教育課程、現在の制度や課題、授業の工夫(ICT活用を含む)、高等学校における遠隔授業の取組紹介、病気の子どもや家族の心理について学びます。

児童生徒理解

研究テーマ

「令和の日本型学校教育」の構築に向けて

～個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた1人1台端末の活用と教職員研修～

研究目的

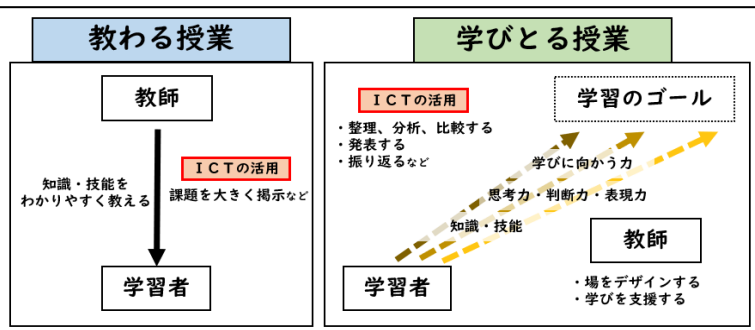
授業や校務におけるICT活用の推進にあたって研究協力校と連携し、効果的なICT活用について共同して研究を進めるとともに、研究協力校がICT活用指導力の向上に向けた校内研修を計画的に継続実施できる研修モデルを開発し、児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力を育成することを目的としています。

プロジェクト研究関連講座

5月26日（金）実施 研究協力校も参加
新時代の学びを支えるICT教育講座Ⅰ

講義 情報活用能力の育成と主体的・対話的で深い学びに向かう授業について
講師：茨城大学 小林 祐紀 准教授

『より多くの時間を児童・生徒の「学び」に使えるようにICTを活用すること』が大切であり、「教わる授業」から「学びとる授業」へ変えていく必要があるというお話でした。



「教わる授業」では、「教師」が短時間で効率的に説明するためにICTを活用し、「学びとる授業」では「児童・生徒」が、効果的に学ぶためにICTを活用するという違いがあります。

また、「教科の中での探究的な学びの進め方」について、授業例を示してお話いただきました。

レベル1	教師が作成した問い	レベル3	教師が作成した単元を貫く問い（全9時間）
	円の面積が「半径×半径×円周率」となるのはなぜか		「天球上で火星が不規則な動きをして見えるのはなぜか」
ポイント	・学び方をある程度示すこと。 ・時間をたっぷり確保すること。	ポイント	・問いの答えをアウトプットする場を用意すること。 ・評価の観点を踏まえた単元計画表を作成すること。 ・単元計画を児童・生徒と共有すること。

レベル1	学び方をなぞる探究	教員が作成した問いに対する結果が事前に示されており、児童・生徒は探究の基本原則を確認する。	教科の時間で段階的に実施
レベル2	枠組みの中での探究	教員が作成した問いと進め方が掲示され、児童・生徒は自ら探究学習をすすめる。	
レベル3	ガイド付きの探究	教員が作成した問いが掲示され、児童・生徒は自ら考えた進め方で探究学習をすすめる。	総合的な学習の時間にて実施
レベル4	自由な探究	児童・生徒が作成した問いを、児童・生徒が自ら考えた進め方で探究学習をすすめる。	

佐藤浩章(2021)「高校教員のための探究学習入門ー問いからはじめる7つのステップ」, ナカニシヤ出版を参考に作成

「いきなり先進校のような取組はできない」と、段階的に探究の授業の具体的なポイントを挙げながら解説していただきました。授業でICTをこう使うという話ではなく、「学習の流れの中に自然とICTが入ってくる」という、まさに新時代を支えるICT活用について受講者にとって気付きの多い講義となりました。

この講座をもとに、各研究協力校では、ICTの効果的な活用について研究が行われます。

11月21日（火）実施 9月4日（月）から申込開始
新時代の学びを支えるICT教育講座Ⅱ

実践発表 研究協力校の実践発表
小学校3校、中学校1校の実践発表、効果的なICT活用についての協議を行います。

オススメ動画 20XX in Society 5.0～デジタルで創る、私たちの未来～
一般社団法人 日本経済団体連合会

科学技術が発展した社会の様々な場面を見ることができ、新時代についてイメージしやすくなります。教育の在り方を考えるきっかけになる動画ですので、是非御覧ください。（動画時間4分45秒）

地球環境問題から考える 6月5日（金）実施 地球環境学講座

「人と自然。地球環境問題は、人間文化の問題である。」

今年度初めて総合地球環境学研究所において「地球環境学講座」を開催しました。ここでは、人文学・社会科学・自然科学の文理融合による研究を進められており、その研究者より提起された具体的な課題を通して、地球環境問題について深く考える機会となりました。



人間らしく豊かに生きていくために必要な力

- ① 文章や情報を正確に読み解き、対話する力
- ② 科学的に思考・吟味する力
- ③ 価値を見つけ生み出す感性と力
- ④ 好奇心・探究心

STEAM教育で育成

人類が20世紀に反応性窒素を獲得し、窒素を有益に利用した後の窒素汚染を引き起こす窒素問題というトレードオフ（両立できない関係性）や、人々の生活が豊かになったことで排出された二酸化炭素の増加が海洋酸性化を引き起こし、生態系の破壊や様々な気候変動に繋がっていること等、私たち一人一人の生活が地球環境問題の原因であることに改めて気付かされました。そして、地球環境問題に限らず、知識や情報を得るだけでなく、何が必要で何が不必要なのかを考える力や判断する力、またこれまで正しいと信じていたことを考え直し、新しい価値観を創造すること、「人新世」と言われるこの時代、子どもたちに「考えることの楽しさ」を実感させられるような教育が大切になってくるということ等、講義を通して多くの気付きや学びがありました。

それは最近よく耳にする「STEAM教育」と繋がっています。社会が大きく変化する今、左の4つの力が求められています。

総合地球環境学研究所のすすめる文理融合的な研究から、教科横断的な学びの充実について考える機会にもなりました。

